リクライニング・コンサート

リクライニング席で、最高の演奏をリラックスした雰囲気で聴けるユニークな60分コンサート！

第８４回　バロック・オペラの日

最新最強コラボによる“21世紀のラモー”

バロック・アンサンブル

鈴木優人（指揮・演出・チェンバロ）

野々下由香里（ソプラノ）　築城玲子（フラウト・トラヴェルソ）

三宮正満、森綾香（オーボエ）

若松夏美、荒木優子（ヴァイオリン）　成田寛（ヴィオラ）

平尾雅子（ヴィオラ・ダ・ガンバ）　西澤誠治（ヴィオローネ）他

黒田育世（コンテンポラリーダンス）

2011年12月9日［金］

15:00 start(14:30 open)

19:30 start(19:00 open)

1回券　普通席 3,500円

リクライニング席　4,000円（1ドリンク付）

記念すべきリクライニング・コンサート初のラモーのオペラ・バレ。
演奏は、オランダに生まれ、作曲、古楽を学び、ピアノ 、オルガン、チェンバロはもちろん、広く演出なども手がける若きサラブレッド鈴木優人と彼の仲間たちによるアンサンブル。
そして、美しくエレガントでありながら、現代人のもつ心の叫びをえぐりだし、それをチャーミングに踊ってみせる舞踊界を牽引する奇才ダンサーの黒田育世。
この２者による最新最強のコラボレーションにより、華々しく現代に甦ります。

プログラム

◎ラモー：オペラ・バレ「優雅なインドの国々」より　抜粋

鈴木優人（作曲、指揮、ピアノ 、オルガン、チェンバロ）　Masato Suzuki, composer,conductor,piano,organ, cembalo

1981年オランダに生まれ。幼少より両親に音楽の手ほどきを受ける。14歳より指揮を始め、東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修士課程音楽研究科古楽専攻修了。オランダ・ハーグ王立音楽院にてヨス・ファン・デル・コーイに師事し、オルガン科および即興演奏科を首席で卒業。同時にアムステルダム音楽院にてチェンバロをボブ・ファン・アスペレン学ぶ。ピアノおよび室内楽、伴奏法を小林道夫、ロジャー・ヴィニョールズ、コンラート・リヒター、スタンリー・ホッホランド、ヤコブ・シュテンプフリの各氏に師事。バッハ・コレギウム・ジャパンのチェンバリスト、オルガニストとして、定期演奏会・録音・海外ツアーに参加。2005年、バロックから現代音楽までの幅広いレパートリーをオリジナル楽器で演奏するアンサンブル・ジェネシスを、ヴァイオリニストの山口幸恵と結成し、音楽監督を務める。2007年、ドイツリートのよりよい理解と普及を目指して、ドミニク・ヴェルナーと田村吾郎とともに日独リートフォーラムを結成。2009年、新国立劇場「ポッペアの戴冠」の演出を務める。2011年には東京・春・音楽祭にて「ローエングリン」の空間演出を担当。主な作品に、複数の編成のための「apokalypsis i-v」、「深き淵より」（東京ムジーククライス委嘱）、オルガンのための「YOKOHAMA」などがある。2010年にリリースされた最新チェンバロソロCD「rencontre」は各誌に絶賛された（Aurora classical）。2011年4月「美しきマゲローネの物語」のCDをリリース。

黒田育世（コンテンポラリーダンス）　Ikuyo Kuroda, contemporary dance

BATIK主宰・振付家・ダンサー

6歳よりクラシックバレエを始める。「谷桃子バレエ団」に所属しながら1997年渡英、ラバンセンターにてコンテンポラリーダンスを学ぶ。2000年より「伊東キム＋輝く未来」で活動。02年カンパニー「BATIK」を設立。03年トヨタコレオグラフィーアワード《次代を担う振付家賞》《オーディエンス賞》を受賞。04年『花は流れて時は固まる』『SHOKU』を発表し、《朝日舞台芸術賞》《キリンダンスサポート》をダブル受賞。06年《舞踏批評家協会賞》受賞。06年初演の『ペンダントイヴ』は09年に映画化され話題を呼んだ。ダンストリエンナーレ・トーキョー09で『矢印と鎖』、フェスティバル/トーキョー09秋で『花は流れて時は固まる』改訂版、フェスティバル/トーキョー10にて『あかりのともるかがみのくず』を発表。カンパニーでの活動に加え、金森穣率いるNoism05への振付提供や、ジョセフ・ナジ振付・演出作品『遊＊ASOBU』への出演、作家の古川日出男との共作『ブ、ブルー』、飴屋法水演出によるソロ作品『ソコバケツノソコ』などを発表。また、NODA・MAP『ザ・キャラクター』、『南へ』への振り付け提供や、映画『告白』（中島哲也監督）への出演など、活動の幅を広げている。http://batik.jp/